

五郎丸に影響与えた指導者の部下育成術(第4回)

“イケてる瞬間”を思い出させ、強みを自覚させよ

2016.03.23

ラグビーワールドカップの大活躍で話題となった五郎丸歩選手。選手として基礎を固めた早稲田大学ラグビー蹴球部時代の監督が中竹竜二氏だ。五郎丸選手は、今でも影響を受けた指導者として中竹氏の名前を挙げる。中竹氏に結果を出す部下への指導法を学ぼう。

今回も「部下に気づきを与える」言葉のかけ方を紹介する。前回、短所を補う強みを導き出すことの重要性を解説した。それではその強みを導き出すためにはどうしたらいいのか。そのヒントは「イケてる自分」を思い出させることにある。そして、その強みを結果に結びつけるのが上司の役割である。

「君の強みは、勝負勘に優れているところだと思うよ」。早稲田の監督時代の、ある選手との個人面談。私は彼にそう言った。彼はラグビー選手としては体が小さく、足が速いわけでも、力があるわけでもない。悪いところがない代わりに強みも見えないタイプ。本人も自分の強みが分からず、ずっと悩んでいた。

しかし、そんな彼の練習や試合でのプレーを見てみると、とても光っている瞬間があった。それは、ゲームの流れが変わるときだった。ピンチをチャンスに変え、それによってゲーム全体の風向きを逆転させる。大差で負けているときはまったく活躍しないが、接戦では大活躍。チームを勝利に導く力を持っていた。

どんなに自信が持てない人でも、「瞬間」を切り取れば必ず強みはある。彼の明確な強みが発見できたのも、彼を注視し、「その瞬間」を見極められたからだ。

ある瞬間だけを切り取れば、比類なき能力を発揮する… 続きを読む